

# GIS NEWS LETTER

## 地理情報システム学会ニューズレター 第65号

発行日 ● 2008年3月15日  
発行 ● 地理情報システム学会事務局

### 目次

|                             |    |
|-----------------------------|----|
| 鍵は人材の育成！（会長・村山 祐司）          | 1p |
| 大会セッション報告（Session 3 空間情報技術） | 2p |
| 2008年度 GISA学会賞の募集           | 2p |
| 2008年度 第1回定期総会のお知らせ         | 2p |
| 学会からのお知らせ（IT理事会報告）          | 2p |
| ●委員会報告                      | 2p |
| 1. 次期会長・副会長選出経過報告           |    |
| 2. 委員会等の改廃、機能について           |    |
| 3. 規程の改廃について                |    |

|                                |    |
|--------------------------------|----|
| 4. 会員情報の利用について                 |    |
| 5. デジタルライブラリーの稼働について           |    |
| 6. GIS資格認定協会の発足                |    |
| ●学会後援・協賛行事等のお知らせ               | 3p |
| 地方事務局・SIG活動                    | 3p |
| 学会周辺の動向                        | 7p |
| ●GIS防災情報ボランティア                 |    |
| ●日本地球惑星科学連合2008年大会             |    |
| ●第31回国際地理学会議(IGC 2008 Tunisia) |    |
| 事務局からのお知らせ                     | 7p |

## 鍵は人材の育成！

（会長・村山 祐司）

地理空間情報活用推進基本計画（案）がまとまり、本年2月に公表された。パブリックコメントを経て、3月には閣議決定の運びになる。この基本計画では、「GISと衛星測位を利用して地理空間情報を高度に活用していくことが、現在及び将来の国民が安心して豊かな生活を営むことができる経済社会を実現する上で極めて重要」と指摘され、地理空間情報の高度活用が強調されている。その全般的施策として、1) 関係主体の推進体制の整備、2) 国と地方や産学官の連携の強化、3) 調査・研究、知識の普及、人材の育成、国際協力の推進などが掲げられているが、ここに知識の普及や人材の育成が盛り込まれたことの意義は大きい。とくに人材の育成については、「国は、測量、GISに関する技術及び地理空間情報の活用方法に関する講習会の実施、大学などと連携したカリキュラムの提供及びテキストの作成などをを行い、大学等や地域において地理空間情報の活用を担う人材の育成を推進する」と明記されている。とくにGIS普及の拠点としての大学の役割に期待が寄せられている。

しかし残念ながら、大学側にこの要請に十分に答えられる教育体制が構築されているとはいえない。早急なアクションが求められる。そもそも日本には地理情報科学やカルトグラフィの育成機関がきわめて少なく、CSIS（東京大学空間情報科学研究センター）を除けば、学科名や専攻名にGISの看板を掲げる大学はみあたらない。大学院も同様である。GISに関係する学科やセンターが次々と誕生している欧米先進諸国と比べてわが国の動きは鈍い。米国では、GISのトレーニングや研修を実施するコミュニティカレッジが林立しているし、社会人向けに夏期コースや夜間プログラムを提供する大学も少なくない。

わが国の大学で組織的にGIS教育が進展しない理由の1つに、学問分野が縦割り構造になっていることがある。GISは必然的に既存の学問分野をまたぐ多専門性・学際性を有するが、実はこれが体系的なGIS教育の推進に大きな障害になっている。GISに関心を持つ教員が学内に分散的に配置されているため、カリキュラム編成において教員が連携しにくい仕組みになっている。

当節、大学で定員を増やすことは難しい。この状況下にお

いて、大学人がいま取り組むべきは、学内ネットワークの強化にあるように思う。社会科学系の教員と工学系の教員が協力して、オムニバス形式で専門科目を担当する、あるいは関係者が総力を結集して低学年向けに総合科目を設置することなどが手始めに考えられよう。

この点で新潟大学の先進的な取り組みが参考になる。GISのキャンパスサイトライセンスを導入し、教員・学生・職員を問わず誰でもGISを利用できる環境を整備するとともに、学内に散らばる教員が結集し、全学学生を対象に「GISリテラシー入門」、「GIS概論・演習」などの科目を開講して、継続的なGIS技術の習得と学業への応用を支援している。さらに環境・防災GISセンター、ヒューマンヘルスGISセンターという2つのコアステーションを設置し、高度技術専門家の育成に力を注いでいる。このプロジェクトの開始をきっかけに、教員の間で徐々に学部・専攻を越えた連帯意識が芽生えていったという。

大学間連携を強化することも重要である。米国では、UCGIS（GIS大学連合）を組織し、情報交換やセミナーの開催、コアカリキュラムの策定、教材の開発などを通して、各大学のGIS教育をサポートしている。現在、このコンソーシアムには80を越える大学が参加している。各大学が個別に手探りでGIS教育に取り組んでいては十分な成果を上げられないのは明らかであり、わが国でもUCGISのようなGIS教育の支援組織が創設されることが望まれる。

学生に受講のインセンティブを与えるには資格制度の活用が有効である。大学で取得できるGIS関係の資格には、測量士補、JABEE、社会調査士・専門社会調査士などがあるが、今年4月からはGIS学術士（学部生向け）とGIS専門学術士（大学院修士向け）の資格が新たに加わる（認定機関は日本地理学会）。GIS学術士の資格を得るには、GISに関連する情報処理を中心とする科目（2単位）、GISの基本的機能と空間データの講義を中心とする科目（2単位）、GISによる地図作成・空間分析の実習を中心とする科目（4単位）、GISを利用した卒業論文を執筆する科目（4単位）を取得することが条件である。実績証明団体としての認定、科目編成や学生指導などを通じて、教員組織のネットワーク化が進むものと推測される。企業側も資格制度を前向きに評価し、資格保持者を

積極的に採用してほしいものである。

資格の取得者は、社会人となった後、職業人向けのGIS上級技術者（GIS資格認定協会認定）の資格取得をめざすようになれば、日常業務において絶えず研鑽を積んでいく道筋がつけられ、人材育成の観点からもきわめて効果的である。たとえば、GIS学術士の保有者には、GIS上級技術者の資格申請の際にポイントを加算して優遇するなど、資格群の連携を強める措置が有効であろう。

最後に、中長期的にみてGISを社会に根付かせるには初等中等教育が鍵になることを指摘しておきたい。地理空間情報高度活用社会の到来を間近に控え、地図の読解力や空間的思考力の育成は喫緊の課題に浮上している。小中高の教員の役割は大きい。日本学術会議の対外報告「現代的課題を切り拓く地理教育」では、地図/GISに関する教員のスキルの向上に言及し、「教員養成カリキュラムに地図/GISに関する科目を新設し、現職教員への地図/GIS教育を実施すること」を提言している。この働きかけが実るよう、会員諸氏には運動の推進をお願いする次第である。

#### 第16回GISA学術研究発表大会セッション報告（追加報告）

##### Session 3 空間情報技術（司会・報告：福井 弘道）

本セッションでは、4人の話題提供者があった。井上他論文（No.35）は、2枚の地図上に設定した基準点配置を元にして、ねじれない一対一に対応した地図変形を行うために、同相の三角網を構築する手法を提案したものである。古地図やカルトグラムなど、形状の違いが大きい基準点の配置を用いることで、地図変形を容易にし、空間情報の特徴をより明確に表現することが可能になり、応用範囲は広いと思われる。草薙他論文（No.36）は、代表的な汎用GISアプリケーションのArcGISによる空間情報処理をグリッドコンピューティングの環境下（CyberGRIP）で実行し、その有効性を検討したものである。レイヤに分割して、同じGIS操作を適用する垂直分散と、エリアに分割して、同じ分散処理を適用する水平分散処理の双方とも、全体の処理性能の向上が見られた。今後は、最適なチューニング方法についての実証実験のデータを蓄積し、大規模な空間情報処理に対して今後の実用性の検討がなされることを期待したい。松下他論文（No.37）は高精度測位が可能なRTK-GPSについて、高速初期化と慣性航法複合技術を適用して、継続的に高精度測位を実現する方法をシミュレーションにより検討したものである。今後は野外で実証実験を行うとともに、準天頂衛星などの実現により、効率的な建設重機による野外作業管理などへと展開していくことを期待したい。最後のココウイン他論文（No.38）は、Ultra Mobil PCを用いて、Google Map APIによるフィールドにおけるデータ収集システムを実装し、利用可能性を示したものである。近年モバイルコンピューティング環境の進展は著しく、本発表で紹介されたようなGISを活用したフィールドにおけるデータ収集システムの活用は今後益々普及していくものと思われる。（以上、文責福井。長期海外調査のため、本稿掲載が遅れたことを関係各位にお詫び申し上げます。）

#### 【2008年度 GISA学会賞の募集】（学会賞委員会）

2008年度地理情報システム学会賞の募集を行います。

応募資格者および提出物の内容、受賞者選考・決定方法はHPでご確認下さい。自薦、他薦は問いませんので、奮ってのご応募、お待ちしております。

選考結果は9月末日までに応募者各位にご連絡いたします。また受賞者は、第17回研究発表論文大会で表彰されます。

募集部門：「研究奨励部門」（年齢制限があります）、「学術論文部門」、「ソフトウェア部門」、「教育部門」、「著作部門」  
応募期限：2008年7月15日（火）

#### 【2008年度 第1回定期総会のお知らせ】

地理情報システム学会2008年度第1回総会を、下記の2部構成で開催いたします。本総会では、次期会長・副会長の承認、事業計画、規程の改廃等重要な議題がありますので多くの会員のご出席をお願いします。（委員会報告 1～3. 参照）

なお、第1部は、本学会が総会に先立って主催する特別シンポジウムです。本シンポジウムには参加費は必要ありません。また、非会員の方もご参加いただけますので、皆様お誘い合わせの上、是非、ご来場いただき、引き続き総会へご出席ください。学会ホームページから事前登録（先着順、定員100名）をお願いします。

◆日時 2008年4月26日（土）

##### ◆第1部「シンポジウム」／13：30～15：30

「イノベーション25社会還元加速プロジェクト～国民一人ひとりに災害情報を届けるシステム構築を目指して～」  
内容：各省庁の研究開発の紹介とパネルディスカッション  
後援（予定・順不同）：内閣府（科学技術担当、防災担当）、国土交通省、国土地理院、総務省、文部科学省、消防庁、（独）情報通信研究機構、（独）防災科学技術研究所  
参加費無料。先着順（定員100名）。準備でき次第、学会ホームページから事前登録願います。

##### ◆第2部「総会」／15：40～17：00

議題：1) 2007年度会計報告・事業報告  
2) 次期会長・副会長の承認  
3) 次期委員会等の改廃、委員の承認  
4) 2008年度予算・事業計画  
5) 2008年度学術研究発表大会について  
6) 規程（会則・内規）の改訂  
7) その他

※ 第2部「総会」への出欠席、委任状提出につきましては、2008年2月末日現在、本年度迄の年会費を完納されている正会員に、ピンク色の別紙（本ニューズレター同封）にてご案内しております。  
学生会員や賛助会員の方々は、当日直接会場にお越し下さい。

##### ◆場所 東京大学工学部14号館141番教室

東京都文京区本郷7-3-1

最寄り駅：東京メトロ丸の内線・都営大江戸線「本郷三丁目」／東京メトロ千代田線「根津」／東京メトロ南北線「東大前」／都営三田線「春日」

#### 【学会からのお知らせ】

##### ■IT理事会報告

- ・2007年11月30日付  
『GIS理論と応用』に新たな審査論文ジャンル「データ論文」「ソフトウェア論文」を設けることが承認された。
- ・2007年12月3日付  
GIS技術資格認定局（GISCD）のGIS技術資格認定協会（GISCA）への改組・改称が承認された。
- ・2008年1月7日付  
SIG「空間的思考研究会」の新設が承認された。

#### 【委員会報告】

1. 次期会長・副会長選出（選挙管理委員会：今井 修）  
会則10条（会長・副会長）の会長・副会長候補の選出のため、内規に従い選挙管理委員会（委員長今井修、委員落合司郎、大沢裕）を設置し、会員より副会長の会長信任、新理事の中からの副会長候補3名の推薦受け付けを行い、1月7日開票を行いました。その結果、副会長の信任が承認され、浅見泰司理事、大沢裕理事、吉川真理事の3名が副会長候補とし

て選出され、引き続き副会長候補の選出が行われました。1月29日再度選挙管理委員会（委員長今井修、委員落合司郎、貞広幸雄）を開催し、開票の結果、吉川眞理事を副会長候補として選出しました。

## 2. 委員会等の改廃、機能について（総務担当理事：今井 修）

2008年1月21日運営委員会において、会則17条（委員会）に基づいて設置されている各委員会について、実情報にあわせた改廃、機能について議論され、以下のように整理しました。

- 1) 企画委員会：将来計画立案、活動内容に合わせた諸規則の整備・改正、対外的申請計画、アドバイザリーボードの対応、法人化のための準備
- 2) 渉外委員会：対外活動の窓口（地球惑星科学連合、他学会、海外GIS関連学会、賛助会員など）、日本学術会議委員のバックアップ
- 3) 広報委員会：ホームページの運営、会員拡大に向けた活動、その他広報に関する内容
- 4) 大会実行委員会：大会開催場所の選定、大会プログラム・大会運営に関する統括、学会講演論文集の編集・発行、大会プログラムと講演論文集目次のホームページ掲載
- 5) 学会賞委員会：学会賞5部門の選定、大会優秀発表賞の選定、受賞者のホームページ掲載
- 6) 編集委員会：学会誌「理論と応用」の編集方針などの基本計画の立案、学会誌掲載論文および諸原稿の審査、学会誌の編集・電子的提供、その他編集・刊行に伴う業務
- 7) 教育委員会：学校教育、カリキュラム、生涯教育に関する内容検討、教育シンポジウム等の開催
- 8) 全国連携委員会：地方事務局活動の連携を図るための活動、支部活動のホームページ掲載
- 9) 資格認定局（→GIS資格認定協会に変更）：技術資格の認定・発行、教育主催者の認定・発行

さらに、学会運営を円滑に行うため、事務局にこれまでどおり、事務局長を補佐する総務担当理事、財務担当理事、広報担当理事、会報担当理事を置きます。事務局では、会長、事務局長、担当理事、事務局員による事務局会を設置するとともに、必要に応じて、委員会委員長長の参加する運営委員会を設置いたします。

## 3. 規定の改廃について（総務担当理事：今井 修）

現在、学会事務局では、上記の委員会活動の内容に合わせ、規定の改廃を予定しております。また、今年末に予定されている公益法人に関する法律の施行にあわせても、検討を行っております。規定の改廃内容につきましては、内容に応じて総会に諮る予定です。

## 4. 会員情報の利用について（総務担当理事：今井 修）

個人情報取り扱いについては、すでに会員の方へお知らせし、ホームページにも掲載しておりますとおり、プライバシーポリシーに従った扱いを行っております。今後、学会活動に関するお知らせを迅速に、安価に行うため、メール等で配信する計画を立てております。そこで、学会では、会費納入にあわせて、個人情報の取り扱いについての確認を行う予定にしております。どうか趣旨をご理解いただき、メール配信について賛同いただけますよう、お願いいたします。

## 5. デジタルライブラリーの稼働について

本年6月から、デジタルライブラリーが稼働します。先ずは『GIS理論と応用16-1』（2008年6月末日発行予定）を公開し、その後は採用決定された原稿を書籍発行に先立って随時公開します。これによって論文投稿から公開までの期間が短縮するとともに、全ての会員が学会ホームページから発表論文にアクセスが可能となります。また、既刊書（含『大会講演論文集』）の公開についても、準備を進めております。

デジタルライブラリーは、会員のメリットに配慮し、一定

期間の間は会員のみ公開し、期間経過後は一般に公開します。このため、会員のみ公開中のデジタルライブラリーにアクセスするには、パスワードが必要となります。（パスワードについては「事務局からのお知らせ」を参照してください）

## 6. GIS資格認定協会の発足（GISCA幹事長：太田 守重）

2008年1月から、GIS技術資格認定局はGIS資格認定協会（GISCA）に改称しました。局は2006年度からGIS上級技術者の認定及びGIS教育認定を行ってまいりましたが、GISに関連する諸学会との連携の下で、この制度のさらなる普及を目指し、GIS学会の下部組織として協会（会長：碓井照子、審査委員長：久保幸夫）を発足させました。現在連携学会は日本地理学会、人文地理学会、日本リモートセンシング学会、そして日本国際地図学会です。連携学会の窓口になっておられる皆様には、この場をお借りして改めて御礼申し上げます。今後は、ご賛同をいただける関連学会との連携をさらに拡大していく予定にしています。

局が発足してから2年間で、GIS上級技術者は全国から約80人、GIS教育認定は21件を数えるに至りました。上級技術者は月に4、5名の割合で増加しています。

GIS上級技術者の資格は、公の組織による技術の裏づけとして機能し、自分が所属している組織や社会に対して、自分の能力を客観的に証明できることとなります。また、この資格は試験ではなく、自らが受けた教育や実務経験、そしてGIS分野への貢献度などをポートフォリオとして提出していただき、それを審査する方式を取っています。これは、GIS技術が広い範囲で使われており、限られた時間で行う試験では、その能力を評価することが困難だからです。また、具体的な審査方式はアメリカのGIS Certification Instituteが実施しているGISプロフェッショナル認定の方式を参考にして作りしました。つまりこの資格は国際的な水準を目指していることとなります。協会は、我こそはと思うあなたの挑戦を待っています。詳細についてはHP（<http://www.soc.nii.ac.jp/gisa/gisca/>）をご覧ください。

## 【学会後援・協賛行事等のお知らせ】

■ 後援「日本地理オリンピック選手権大会兼国際地理オリンピック選抜大会」

主催：日本国際地理オリンピック委員会/  
日本国際地理オリンピック実行委員会

会期：2008年3月22日（土）

会場：東京学芸大学附属竹早中学校、キャンパスプラザ京都 他  
<http://www2.dokkyo.ac.jp/~rese0012/>

■ 協賛「第59回シンポジウム「インターネットとOR」」

主催：（社）日本オペレーションズ・リサーチ学会

会期：2008年3月24日（月）

会場：京都コンピュータ学院

<http://www.orj.or.jp/activity/symposium.htm>

※GIS学会員は参加費がOR学会会員と同額になります

■ 協賛「日中韓・情報系GISシンポジウムASGIS2008」

主催：ASGIS実行委員会（新潟大学）

会期：2008年5月22日（木）～23日（金）

会場：朱鷺メッセ（新潟）<http://www.tokimesse.com/>

詳細：<http://www.gisa-niigata.org>

## 【地方事務局・SIG 活動】

■ 北海道地方事務局

（藤原 達也）

昨年12月より4回シリーズで「基本法と地理情報標準講習会」を企画し、開催しております。これは、地理空間情報活用推進基本法の意義と今後の業務でも必要な地理情報標準の実務を実践的に学ぶ場を提供しています。12月11日に開催された第1回目講習会では、国土院北海道地方測量部の高橋地

理空間情報管理官より基盤地図情報の整備の計画と基本法の意義をお話いただき、北海道大学大学院文学研究科准教授橋本雄一氏より地理空間情報の定義、GISとは何か、またその歴史とは、GISはなぜ便利か、どう使うかという基礎的なことから活用事例として積雪寒冷地の防災、地理情報標準の定義等幅広く今日のGIS、地理空間 情報をめぐる状況や活用事例についてお話いただきました。1月24日の第2回目の講習会では、朝日航洋株企画開発統括部GIS担当部長の伴真吾氏を講師として、地理情報標準に基づく製品仕様書の作成実習を、製品仕様書エディタを用いて行ないました。今後2月には、メタデータ作成や地理空間データ作成についても、実践的な講習を行なう予定です。

#### ■ 東北地方事務局 (増田 聡)

東北地方事務局の増田です。宮城県・仙台市・東北大学による「防災研究成果普及事業」の成果として、各機関が様々な形で保有している情報をGIS上で共有化するための基盤整備が行われ、昨年度にプロトタイプを公開した「防災情報共有プラットフォーム・地域防災力評価システム」が稼働を始めています。特に、机上のシステムに終わらせることなく、一般市民や自主防災組織の方々にも積極的に利用していただくため、「第3回災害に強いコミュニティのための市民フォーラム：想定宮城県沖地震に対する自主防災活動の交流・連携・発展 (2008年3月9日)」において、町内会向け地域防災力診断コーナーを開設し、システムの紹介とデモを行いました。

なお来年度より、東北地方事務局を岩手県立大学ソフトウェア情報学部の阿部研究室(社会情報システム学講座)にお願いすることになりました。至らぬ事務局でしたが、これまでの皆様のご協力に感謝いたします。有り難うございました。

・宮城県沖地震対策研究協議会

<http://www.disaster.archi.tohoku.ac.jp/kyogikai/>

・地域防災力評価

<http://130.34.85.233/Net-SS/hyoka/what.html>

#### ■ 北陸地方事務局 (牧野 秀夫)

◆ 2007/07/13 「GIS学会地域シンポジウム in 新潟」

新潟国際会議場 朱鷺メッセ

◆ 中越沖地震支援

新潟県庁内緊急地図作成班の活動に協力

◆ 2008/1/25 GIS学会ビジネス分科会主催

第2回『ビジネスGISコーディネータ研修新潟』

にいがたGIS協議会後援

◆ 2008/2/4 第4回特別講演セミナー『防災とGIS』

GIS学会共催

◆ 2008/1/31、2/1新潟大学災害復興科学センター主催

「新潟県庁災害GIS研修」にいがたGIS協議会後援

#### ■ 中部地方事務局 (奥貫 圭一)

中部地方事務局では、ニューズレター62号でご案内いたしましたとおり、昨年8月23日(木)、24日(金)の両日にわたって、国際集会『歴史地図とGIS』を名古屋大学文系総合館にて開催いたしました。この国際集会は、名古屋大学附属中央図書館、名古屋大学環境学研究所社会環境学専攻、人文地理学会歴史地理研究部会との共同開催で、国内外から発表者約20名が招かれ、最新の歴史GIS研究が議論されました。同時通訳システムを備えた会場は収容人数が多くなかったのですが、発表者以外におよそ30名の聴衆が集まりました。当学会会員はわずかでしたが、歴史学や古地図に関わる人文・社会科学分野の研究者らの参加が目立ちました。そうした分野へGISが普及していく余地がまだまだ残されていることでしょう。

また、昨年7月18日(水)には、長野県GIS協会さまの主催

により、GISシンポジウム『GIS…ユビキタスと地域発の可能性』がメルパルク長野にて開催され、中部地方事務局はこれを後援させて頂きました。この催しは、講座“GIS技術講習会”として当学会のGIS技術教育認定を受けております。

[http://geog.lit.nagoya-u.ac.jp/gisa\\_nagoya/gisanagoya.html](http://geog.lit.nagoya-u.ac.jp/gisa_nagoya/gisanagoya.html)にて、中部地方事務局のこれまでの催しについて、それぞれプログラムや内容の紹介を掲載しています。

#### ■ 関西地方事務局 (吉川 眞)

2月半ばでの年次報告には、少々辛いものがあります。当組織が主催・関係する大きな事業が2月下旬から3月下旬に集中するからです。よって、以下は報告というよりは案内の域を出ません。しかも、会員諸氏の目に触れる頃には活動済みという皮肉な結果も見えていますが、とにかく「案内」します。

3年振りの「若手による技術研究発表会」を2月23日に大阪工大摂南大学・大阪センターで日本写真測量学会関西支部と共催します。GISの運用・利活用、空間情報の生成や利用・応用といった分野に携わる30歳以下の「若手」による技術研究発表会です。また、3月18日には、大阪府都市整備部が事務局を務める「GIS大縮尺空間データ官民共有化推進協議会」の平成19年度総会(会場未定)が開かれることになっています。同協議会には当組織から碓井元会長と吉川が毎年度アドバイザーとして参加していますが、今年は両人がそれぞれ特別講演を行い話題提供することになっています。

最後は当組織の継続事業で第8回目となる「関西地域GIS自治体意見交流会」です。尼崎市の協力を得て尼崎市小田地区会館で3月25日に日本写真測量学会関西支部と共催します。5名の講師による講演とパネルディスカッションにより、地理空間情報活用推進基本法の施行による新たなGISの展開可能性を探るため情報交換を行います。

なお、以上を実施した結果は、次号以降で「報告」します。

#### ■ 中国地方事務局 (岩井 哲)

中国地方事務局の岩井です。今年は「GISセミナー・中国」を第7回から第9回までの計3回開催することができました。2007年7月6日(金)に「GISセミナー・中国」第7回を、広島修道大学において開催しました。地理情報システム学会会長・村山祐司氏(筑波大学大学院生命環境科学研究科)を迎え、『GISの発展—地図化から解析へ—』という題目でご講演いただきました。次いで「広島原爆の日」前日の8月5日(日)に、昨年度に引き続きGISワークショップの2回目を開催しました。広島市において小・中・高・大学・大学院生を対象として、午前中はフィールドワークで真夏の暑さを体験しながら、被爆建物や、被爆に関わるモニュメントを探索し、午後の室内作業・発表会(一般公開)でGISに原爆痕跡地図を作成するイベントです。昨年と同様に、太田弘氏(慶應義塾)と、被爆者の奥本博氏に参加していただき、このセミナーの様子は中国新聞社の朝刊およびホームページにて掲載されました。また昨年の様子は、10月に北海道で開催されました地理情報システム学会大会で披露しました。第9回「GISセミナー・中国」は、2008年3月10日(月)に、広島市内で開催します。若林芳樹氏(首都大学東京・都市環境学部)に『GISと空間認知：進化する地図と地理情報の科学』をテーマにご講演いただく計画です。毎回のセミナーの詳細と最新情報は中国地方事務局のホームページ<http://www.osu.ac.jp/~gisac/index.html>に掲載しております。是非ご覧下さい。

#### ■ 四国地方事務局 (高木 方隆)

四国地方事務局においては、2月20日に四国GISシンポジウムを開催いたします。このニューズレターが発行されている頃には既に終わっているとは思いますが、その概要について報告させて頂きます。開催場所は、香川県高松市のサンポ

ート高松です。JR高松駅と高松港に隣接する非常に交通の便の良いところ。四国地方事務局で行うイベントは、いつもここでを行っています。

シンポジウムは、一般講演・特別講演・パネルディスカッションの3部構成としました。一般講演では、四国の研究・教育機関や民間企業等から19件もの発表の申し込みがありました。特別講演では、愛媛大学の堤先生、国土地理院の中野様、パシフィックソフトウェア開発(株)の竹村様をお願いし、パネルディスカッションでは、「四国におけるGISの活用」と題し、特別講演の方々、香川大学の白木先生、ダイナックス高松の奥山様にも加わって頂きます。

初めてのシンポジウムですが、こんなにもたくさんの方々が集まるとは思っても見ませんでした。しかも全ての講演者は四国の方です。今後も継続してシンポジウムを行う必要性を感じました。来年も2月下旬に開催する予定です。また、9月に事務局会議を行い、次回シンポジウムの詳細を決定する予定です。今後ともよろしくお願いいたします。

## 九州地方事務局

### 沖縄地方事務局

(有銘 政秀)

既に花見も終わり、9球団がキャンプを張る球春近い沖縄からのレポートです。沖縄地方事務局(GISAO)では昨年12月3日に「GISA沖縄2007年度研究会&特別講演会」を開催いたしました。これにはGISA(協賛)始め10の官公庁・企業団体の賛同を得て、会場の琉球大学創立50周年記念館は100名近い参加あり大いに沸きました。研究会は琉球大学や民間企業などから5件の発表があり、講演会は奈良大学の碓井照子教授に「地理空間情報活用推進基本法とGIS」と題してご講演いただきました。

このテーマは行政分野の方々の関心も高く、沖縄県や市町村から大勢の参加がありました。会場からの要望もあり講演スライドは後日事務局(ジャスミンソフト社)のサイトからダウンロードできるように致しました。

研究会、講演会ともに会場からは多くの質問や感想が寄せられ会場は熱気に包まれました。ところで沖縄では平成9年度に沖縄振興策事業の一環として国のGISモデル事業を実施して以来、沖縄地理情報システム協議会(GIS協)が設立され、琉大でGISが盛んに研究されるようになるなど、GISへの取り組みが活発になりました。その甲斐あって先般、沖縄県の補助事業としてGIS協の「平成19年度共用空間データ流通基盤モデル整備支援事業」が承認されました。この事業はH20年度も継続する予定であり、H21年度以降の沖縄県マップセンター設立に向けて、県内GIS業界は永年の夢を実現すべく頑張っています。この事業の委員会に碓井教授(奈良大)、柴崎教授(東大)、町田教授&名嘉村教授(琉大)が委員で就任されます。

GISAの民間会員もこの事業の中心的な役割を担っており、今後GISAOとGIS協の連携が一層強まることが期待されます。宮城事務局長を先頭に「GIS王国」に向けて着実に前進する沖縄からのレポートでした。

## 自治体SIG

(大場 亨)

在京者のみでなく、多くの地方の構成員、特に全国の地方公共団体の職員の見解を求め、メーリングリストを通じて(1)国土地理院主催の基盤地図情報の整備等に関する意見交換会について(2)隣接地域との基盤地図情報の接合の問題点と方策について(3)国土地理院によるシームレス化した地図情報の整備と地方公共団体の元データの管理、運用について(4)公共測量の実施計画の届出制度、関係都道府県知事への通知と、測量の調整について

## 空間IT分科会

(有川 正俊)

本年度は、空間ITの教育に関する活動を中心に行った。2007年10月には、2003年から継続して来た、空間情報デザインスクール・空間情報規格スタジオを初心者向けに独学ができる教科書として「GISのためのモデリング入門」(ソフトバンククリエイティブ、監修:有川正俊・太田守重、ISBN:4797342773)を作成し、出版することができた。(空間情報デザインスクール・空間情報規格スタジオは、H18年度のGIS学会において教育賞を受賞している。)

H19年度は、空間情報規格スタジオを以下のとおり開催した。  
・「空間情報デザインスクール・空間情報規格スタジオ(初級編8、9)、(中級編4、5)」  
主催:空間IT分科会(地理情報システム学会)、空間情報科学研究センター(東京大学)

期間:(初級編8)2007年7月23日(月)~25日(水)(3日間連続)

(中級編4)2007年7月26日(木)~27日(金)(2日間連続)

期間:(初級編9)2007年12月3日(月)~5日(水)(3日間連続)

(中級編5)2007年12月6日(木)~7日(金)(2日間連続)

場所:東京大学 柏キャンパス 図書館 1F メディアホール

## ビジネス分科会

(高阪 宏行)

ビジネス分科会の定例の研修である「ビジネスGISコーディネータ研修」を3回開催いたしました。

1)2007年4月26日、宮城県古川市、参加者:34名

雇用能力開発機構宮城センターの再就職委託訓練カリキュラムの一環として開催。

2)2007年5月1日、東京都内、参加者:30名

ビジネス分科会HPにて一般公募による開催。

3)2008年1月25日、新潟県新潟市、参加者:15名

にいがたGIS協議会後援により一般公募

また、毎年1回開催しております「ビジネスGIS事例発表研究会」を2007年11月30日、東京大学工学部教室において開催いたしました。参加者:110名

発表者:4名、発表内容は以下の通りです。

1)「福岡市天神地区における商業施設間の回遊行動の分析」 牟田浩二・関根智子・高阪宏行(日本大学) 斎藤参郎・中嶋貴昭・山城興介(福岡大学)

2)「グーグルアース・レールウェイを活用したマーケティングの可能性」 JR東日本コンサルタンツ株式会社 IT事業本部 部長 小林三昭氏

3)「ビジネスGIS最新事情—取材報告—」 株式会社ネクストパブリッシング GIS・NEXT編集長 岩見一太氏

4)「オリコミ広告業界におけるWebGISの活用」 株式会社朝日オリコミシステム担当補佐 GIS開発担当部長 小林浩司氏

## モバイル・バーチャル

(東明 佐久良)

「GIS応用分野の技術分析」のテーマで2カ月に1回会議を開催。アメリカの現状について英文資料を回覧し検討。

## バイオリージョンSIG

(田中 和博)

・19年度活動報告

1)メーリングリストBioGISを運営し、会員間の情報交換を行った。

2)京都府立大学と京都府庁が共同で開発した「京都府自然環境情報システム(ツキノワグマ版)」について、普及啓発活動を支援した。

3)べたぼーど公開シンポジウム「京都のごみ問題を考える ~ごみと川の関係から見えてくるもの~」(平成19年12月1日、京都府立大学)に協賛した。

4)[関連情報]本SIG会員が、「自然環境解析のためのリ

モートセンシング・GISハンドブック」(古今書院)を刊行したことにより、解析手法の体系化・標準化について進展が図られた。

#### ・20年度活動予定

- 1) メーリングリストBioGISの運営による会員相互の情報交換
- 2) 会員が開催するシンポジウム等の支援

#### ■ 土地利用・地価GIS分科会 (碓井 照子) (今年度報告)

・日時:2007年9月18日(火) 事務連絡会議  
概要:事務連絡

・日時:2007年12月19日(金) 第1回WG  
概要:地価の予想方法について

・日時:2008年1月9日(金) 第2回WG  
概要:R言語の地理加重回帰の動作確認

・日時:2008年2月4日(月) 第3回WG  
概要:研究、シミュレーション1

・日時:2008年2月26日(火) 第4回WG  
概要:研究、シミュレーション2

・ワークショップ(第21回分科会)

日時:2008年2月29日(金)

テーマ:「空間回帰分析による地価の予想」

#### (次年度計画)

土地利用・地価分野で利用されている地理情報システム及び地理空間情報、その他関連データについて調査研究を行い、問題点の分析や、より高度な活用方法などの検討を行うため下記の活動を予定する。

- ・研究会・勉強会の開催(年2回)
- ・地理情報システム及びデータの実態調査
- ・活動内容及び成果の発表(分科会WEBサイト上にて)

#### ■ 地図・空間表現SIG (森田 喬)

2007年度は、(1)8月4日-10日にモスクワで開催された「第23回国際地図学会」において、ICAユビキタス・マッピング委員会(森田委員長)が中心となる四つのセッションにおいて、当SIGメンバーが多数研究発表を行った。(2)8月26日に法政大学において開催された「日本国際地図学会平成19年度定期大会」においてパネルディスカッション「紙地図とデジタル地図の将来-ICCモスクワ大会の動向を参考に-」を当SIGメンバーを中心に実施した。(3)11月8日-9日に香港理工大学において開催された「LBS and Telecartography」において当SIGメンバーが多数参加し研究発表を行った。(4)11月15日に都立産業貿易センターにおいて開催された「デジタルマップフェア」において当SIGメンバーを中心に特別セッション「地図利用からみたデジタル化の意義-ICCモスクワ大会参加をふまえて-」を行った。

2008年度の予定としては、9月初旬にAutoCarto2008とタイアップして、ワシントン郊外においてユビキタス・マッピングに関する第3回国際ワークショップを開催することになっている。これまで、東京、ソウルで開催してきたがアメリカにおけるモバイル系の地図表現について国際比較を行う予定。

#### ■ セキュリティ分科会 (国司 輝夫)

・セキュリティ分科会

2007年4月17日、5月15日第10回分科会事前打合せ

2008年1月15日、2月14日第11回分科会事前打合せ

・ワークショップ(第10回分科会) 日時:2007年5月30日

概要:情報セキュリティ政策の概要及び、企業の情報セキュリティ対策促進の観点から経済産業省の取り組みと位置情報サービスと個人情報・データ

・ワークショップ(第11回分科会) 日時:2008年2月29日(予定)

概要:地理空間情報活用推進研究会、時空間情報の利活用における産業界の動向、空間情報とデータの安全

下記ホームページに分科会開催結果、当日配布資料を掲載しています。<http://gissoken.org/news-security.html>

掲載内容:

・第10回分科会2007年5月30日

①「我が国の情報セキュリティ政策について」経済産業省商務情報政策局情報セキュリティ政策室 頓宮裕貴室長・金井秀紀係長

②「位置情報サービスと個人認証」沖電気工業株式会社 星佳典氏

③「位置情報とデータマイニング」GIS総合研究所 国司輝夫氏

・第11回分科会2008年2月29日(予定)

①「地理空間情報活用推進研究会について」経済産業省商務情報政策局情報政策課 情報プロジェクト室 渡部雅氏

②「時空間情報の利活用における産業界の動向」日本情報処理開発協会データベース振興センター時空間情報システム推進室室長 坂下哲也氏

③「空間情報とデータの安全について」GIS総合研究所 国司輝夫氏

#### ■ 自律分散アーキテクチャSIG (藤田 晴啓)

今年度は、例年に引き続きイノベーションジャパン2007に出展し、大学発の産業技術としてGLOBALBASEの紹介および技術セミナーにおいて森副代表が発表を行いました。GLOBALBASEプロジェクトでは、閲覧ソフトCOSMOSおよびサーバソフトLANDSCAPEの更新版を次々とリリースして巨大画像ファイルの閲覧を容易にしました。現在全世界1kmメッシュNOAAおよびNASA衛星画像を公開配信していますが、将来的には150mメッシュ画像配信も計画しています。産業連携ではデジタル・アーステクノロジー社と空撮画像従量制配信に関する共同研究を開始しました(森副代表)。

研究開発では、考古学コンテンツを中心にGLOBALBASEを利用した空間考古データベースを開発し、対象は中世墓、北東アジア官印、出土銭貨等多岐にわたります。

海外との連携では、10月27日に中国人民大学において開催された「北東アジア考古ネットワーク構築」会議にてGLOBALBASEの利用を提言し、続いて北京大学にて開催された技術研修では、北京大学のGLOBALBASEサーバおよびコンテンツを利用しました。

この、自律分散サーバ運用に関する研修にはロシア科学アカデミーから4名、中国内から5名の参加がありました。

マレーシア工科大学、ウダヤナ大学においてはGLOBALBASEサーバおよびコンテンツ開発技術研修を継続的に行っており、自律分散技術のアジアへの普及を目指しています。

#### ■ 空間的思考研究会 (今井 修)

2008年1月7日付でSIG設立が承認されました。活動開始に当たって、研究会への参加者を募集します。ご連絡ください。われわれはこれまで空間をどのように考え、捉えているだろうか、これからのGISの可能性を考える際に重要ではないか、と考へ研究会を立ち上げました。

空間的思考という言葉は、教育分野で注目されていますが、ここではもう少し幅広く捉えて活動してみたいと思っています。

手始めに、理系文系を問わずいろいろな分野の方々から空間についてのお話を伺うことで、何か得られるのではないかとことから始めたいと思っています。(代表:今井修、副代表:岩見一太)

## 【学会周辺の動向報告】

### ■ GIS防災情報ボランティア (五関 利幸)

昨年7月に発生した新潟県中越沖地震は、震度6強もの揺れが柏崎市周辺を襲い、広範囲の住宅・公共インフラ等に多大な被害を与え、市民生活に大きな支障が生じました。

この時、GIS防災情報ボランティアは、直ちにインターネット上で被害情報を収集し、WebGISを利用して道路通行止めマップを作成、公開しました。また、新潟県知事からの要請で、産学官民のメンバーからなる「新潟県中越沖地震災害対応支援GISチーム」が発足し、GIS防災情報ボランティアからも応援メンバーが「地図作成班(EMC; Emergency Mapping Center)」に参加し、災害対策本部の応急対策活動を支援しました。

現在、国土交通省「安全・安心のためのソフト対策推進大綱」(平成18年6月)に基づき、GIS防災情報ボランティアの仕組みの確立に向けた検討が進められており、先般、産学官213名の登録者を中心に、災害時を想定した実証実験を行いました。

GIS防災情報ボランティアは、GIS技術を災害対応活動の現場で役立たせ、社会貢献活動を通じて地域社会における安心・安全を実現することを目指して活動しています。

災害は何時私達の身の回りで発生するかわかりません。ボランティアとして一緒に活動してくれる方を随時募集しておりますので、この機会に、是非、貴方も参加登録して見ませんか。

なお、本活動は、GIS上級技術者のCPDポイントとして登録される予定です。

#### ●GIS防災情報ボランティアとは？

平成16年10月発生の新潟県中越沖地震を契機に、京都大学防災研究所林春男教授の呼び掛けのもと設立された組織で、災害発生時にデジタル地図情報を作成、提供し、被災現場での災害対応活動を支援しようとするボランティア活動です。

#### ●主な活動内容

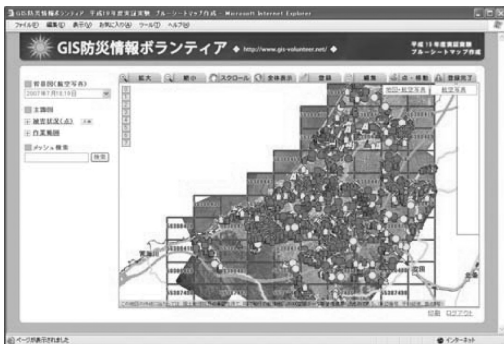
①インターネット上で地図情報を登録・集約・提供する遠隔的な支援活動、②被災地に常駐して災害対策本部に地図を提供する直接的な支援活動、③地域の復旧・復興に向けて自立的なGISを構築する間接的な支援活動

#### ●平成19年度実証実験結果

- ①航空写真判読によるブルーシートマップの作成(下図)
- ②積雪情報の集約・提供
- ③復旧・復興段階におけるEMC活動

※詳細は、実証実験ホームページで順次公開予定です。

<http://www.gis-volunteer.net/zyosetu-fs2007/>



#### ●問合せ先

GIS防災情報ボランティア事務局(株式会社パスコ内)  
〒153-0043 東京都目黒区東山1-1-2 東山ビル  
Mail: info@gis-volunteer.net TEL: 03-3715-1615

### ■ 日本地球惑星科学連合2008年大会 (小口 高)

ーレギュラーセッション「GIS(地理情報システム)」ー  
主催:日本地球惑星科学連合(地理情報システム学会加盟)  
会期:2008年5月25日~30日  
会場:幕張メッセ 国際会議場(千葉市美浜区中瀬2-1)  
詳細:<http://www.jpogu.org/meeting/> 参照

このセッションは地理情報システム学会が運営するものであり、GISに関する発表が30件行われます。そのうち12件は口頭発表、18件はポスター発表です。発表内容は理論、方法論、システム開発、データベース、応用事例など多様であり、日本のみならずフィリピン、ベトナム、合衆国などの海外も対象とされています。外国人による発表も7件含まれており、国際色が豊かなセッションです。このセッションは昨年度から行われており、前回は大変充実したものになりました。今年度も皆様の積極的な参加をお待ちしております。

なお、日本地球惑星科学連合2008年大会では、地理学、地図学、測量学などを対象とした、GISと関連が深いセッションもいくつか開催されます。

コンビーナー:小口 高・村山祐司・柴崎亮介

### ■ 第31回国際地理学会議(IGC 2008 Tunis) (小口 高)

第31回国際地理学会議(IGC 2008 Tunis)が2008年8月12日~15日にチュニスで開催されます。アブストラクトの締め切りは2008年5月31日。詳細は下記の公式ホームページを参照してください。<http://www.igc-tunis2008.com/>

## 【事務局からのお知らせ】

### ■来年度(2008/4/1~2009/3/31)年会費納入のお願い

4月1日付の別便にて、個人会員の皆様には一斉に会費請求をいたします。払い込み期限は5月31日です。来年度からの口座引落をご希望の方、申込用紙を事務局に返送されていない方は、4月30日迄に事務局にご連絡をお願いいたします。既に口座引落ご利用の方は、残高のご確認をお願いいたします。(引落日は6月27日です)

### ■デジタルライブラリーにアクセスするパスワードについて

本年6月から稼働する予定のデジタルライブラリーにアクセスするには、パスワードが必要です。パスワードは5月末日迄に年会費を完納した個人会員、年会費口座引落の個人会員、年会費に滞りのない賛助会員に発行されます(6月ニューズレター発行時に同封)。会費納入期限以降にお支払なかった場合、入金確認の後に個々にパスワードをお知らせすることはありません。ご入用の方は、直接事務局までお問合せ下さい。

### ■個人登録情報の確認にご協力を

年会費請求の封筒に、会員台帳に登録されているあなたの情報(2008/2/29現在)が同封されます。ご確認の上、変更があれば事務局までご連絡下さい。

### ■メーリングリストについて

年会費請求の封筒に、「学会からのメール情報提供の諸否について」を同封されます。これは、学会からの情報を提供し、各地方事務局、SIG(分科会)、委員会からの連絡等を差し上げるためのメーリングリストについてのご案内です。

当学会プライバシーポリシーに従い、参加の諸否についてご回答ください。(http://www.soc.nii.ac.jp/gisa/jp/privacy.html参照)未回答の場合は、ご了解をいただいたものとして、現在登録されているメールアドレス宛に学会からの情報を送信する予定です。なお、メーリングリストからの削除、再登録、アドレスの変更は随時受け付けますので、学会事務局までご連絡ください。

## 学会SIG連絡先一覧

- 自治体：大場 亨（市川市道路管理課 Tel 047-334-1111 内線5564）  
E-mail: BZH06512@nifty.ne.jp
- 空間IT：有川正俊（東京大学空間情報科学研究センター Tel 04-7136-4291）  
E-mail: arikawa@csis.u-tokyo.ac.jp
- ビジネス：高阪宏行（日本大学 Tel 03-3304-2051）  
E-mail: kohsaka@chs.nihon-u.ac.jp
- 森林計画：伊藤達夫（京都府立大学 Tel 075-703-5635）  
E-mail: t\_ito@kpu.ac.jp
- 防災GIS：畑山満則（京都大学防災研究所 Tel 0774-38-4333）  
E-mail: hatayama@imdr.dpri.kyoto-u.ac.jp
- モバイル・バーチャルGIS：東明佐久良（大妻女子大学 Tel 042-339-0052）  
E-mail: shinoaki@otsuma.ac.jp
- バイオリージョン：田中和博（京都府立大学 Tel 075-703-5629）  
E-mail: tanakazu@kpu.ac.jp

- 土地利用・地価GIS：碓井照子（奈良大学）  
事務局：西端憲治（株式会社セイコー Tel 0721-25-2728）  
E-mail: totiriyo-sig@seicom.jp
- 時空間GIS：吉川耕司（大阪産業大学 Tel 072-875-3001）  
E-mail: koji@yoshikaw.com
- 登記GIS：神前泰幸（大阪府土地家屋調査士会 Tel 0724-32-0443）  
E-mail: hk2000@dream.com
- 事務局：上田浩（株式会社プロジェクト・パル Tel 072-367-4196）  
E-mail: propal@m4.kcn.ne.jp
- 地図・空間表現：森田 喬（法政大学 Tel 0423-87-6270）  
E-mail: morita@k.hosei.ac.jp
- セキュリティSIG：川添博史（特定非営利活動法人GIS総合研究所）  
事務局：国司輝夫（特定非営利活動法人GIS総合研究所 Tel 06-6464-7077）  
E-mail: info@gissoken.org
- 自律分散アーキテクチャ：藤田晴啓（東洋大学 Tel 0276-82-9157）  
E-mail: fujita-hi@toyonet.toyo.ac.jp
- 空間的思考研究会：今井 修（東京大学 Tel 04-7136-4297）  
E-mail: oimai@csis.u-tokyo.ac.jp

## 2008年2月末現在の個人会員1,689名、賛助会員95社

(3口) (株)パスコ、(株)創建  
(2口) NTT情報開発(株)

(1口) (株)アイム、アイエニウェア・ソリューションズ(株)、朝日航洋(株)、アジア航測(株)、(株)アルプス社、(株)インフォマティクス、(株)ウインディーネットワーク、(株)ウチダデータ、ESRIジャパン(株)、(株)NTTネオメイト、(財)愛媛県土地家屋調査士会、応用技術(株)、(財)大阪市都市工学情報センター、(財)大阪土地家屋調査士会、オートデスク(株)、(株)オオバ、かごしまGIS・GPS技術研究会、(株)かんこう、関東甲信越東海GIS技術研究会、(財)岐阜県建設研究センター、(株)きもと、九州GIS技術研究会、協同組合GISいばらき、近畿中部北陸GIS技術研究会、クボタシステム開発(株)、(株)こうそく、幸陽測量設計(株)、国際航業(株)、国土情報開発(株)、(株)古今書院、寿精版印刷(株)、(株)コボプラン、(株)サンコム、GIS総合研究所、GIS総合研究所いばらき、(株)GIS関西、(株)J-時空間研究所、(株)JPS、(株)ジオテクノ関西、清水建設(株)、(株)ジャズミンソフト、上越GIS技術研究会、(株)昭文社、(株)セラテックテクノロジー、(株)ゼンリン、(株)総合システムサービス、(株)ソキア、(株)大設、大日本印刷(株)、(株)谷澤総合鑑定所、玉野総合コンサルタント(株)、中央復建コンサルタント(株)、中四国GIS技術研究会、テクノ富貴(株)、電源開発(株)、東京ガス(株)、東武計画(株)、東北GIS技術研究会、(株)ドーン、(株)トロピカルテクノセンター、内外エンジニアリング(株)、長野県GIS普及促進協議会、(財)いたがたGIS協議会、日本エヌ・ユー・エス(株)、日本GPSソリューションズ(株)、日本情報処理開発協会、日本スーパーマップ(株)、(財)日本測量調査技術協会、(財)日本地図センター、日本都市整備(株)、パシフィック・コンサルタンツ(株)、(株)日立製作所中央研究所、(株)ビーブルメディア、ピソニーボウズ・マップインフォ・ジャパン(株)、(株)ベーシックエンジニアリング、(株)ベントレー・システムズ、北海道GIS技術研究会、北海道GIS・GPS研究会、マゼランシステムズジャパン(株)、(株)マップクエスト、松本測量設計(株)、三井造船システム技研(株)、(株)三菱総合研究所、三菱電機(株)、(財)リモートセンシング技術センター

自治体会員：(1口) 大阪府高槻市役所、大阪府豊中市役所、経済産業省特許庁、総務省統計局統計研修所、長野県環境保全研究所、兵庫県尼崎市役所、福井県福井市役所、福岡県直方市

## 編集後記

本号が会報担当理事として皆様へ送る最後のニューズレターとなりました。前任者の荒田氏から引き継いだ2年前、不安で一杯でしたが、多くの方々のご協力で何とか定期的に発行することができました。ここに感謝申し上げます。会員各位に有用な情報提供をと心がけ、トピック的な記事をその都度入れるよう工夫し、また、1頁目には目次を、フッターには発行日・号番号をつけるなど体裁にも工夫しました。皆様のお役に立ちましたでしょうか。ご要望がありましたら、次号からの会報担当理事をお願いします。

(文責：落合 司郎)

## 地方事務局の連絡先一覧

2008年度～2009年度の地方事務局は以下のとおりです。

<北海道地方事務局>  
事務局長：北海道大学 橋本雄一  
Tel：011-706-5555  
E-mail: you@chiri.let.hokudai.ac.jp

<東北地方事務局>  
事務局長：岩手県立大学 阿部昭博  
Tel：019-694-2562  
E-mail: abe@iwate-pu.ac.jp

<北陸地方事務局>  
事務局長：新潟大学 牧野秀夫  
Tel：025-262-6749  
E-mail: makino@ie.niigata-u.ac.jp

<中部地方事務局>  
事務局長：名古屋大学 奥貫圭一  
Tel：052-789-2233 ext.2236  
Fax：052-789-2272  
E-mail: nuki@lit.nagoya-u.ac.jp

<関西地方事務局>  
事務局長：大阪工業大学 吉川 眞  
Tel：06-6954-4201  
Fax：06-6957-2131  
E-mail: gisa@civil.oit.ac.jp

<中国地方事務局>  
事務局長：広島工業大学 岩井 哲  
Tel：082-921-5486  
Fax：082-921-8976  
E-mail: s.iwai.i5@it-hiroshima.ac.jp

<四国地方事務局>  
事務局長：高知工科大学 高木方隆  
Tel：0887-57-2409  
Fax：0887-57-2420  
E-mail: takagi.masataka@kochi-tech.ac.jp

<九州地方事務局>  
事務局長：鹿児島大学 山 利夫  
Tel：0994-46-5362  
E-mail: yamazaki@nifs-k.ac.jp

<沖縄地方事務局>  
事務局長：琉球大学 宮城隼夫  
E-mail: miyagi@ie.u-ryukyu.ac.jp  
連絡先：有銘政秀 ((株) ジャズミンソフト)  
Tel：098-921-1588  
Fax：098-921-1582  
E-mail: arime@jasmisoft.co.jp

## 地理情報システム学会ニューズレター

第65号 ●発行日 2008年3月15日

## 発行

### 地理情報システム学会事務局

〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16  
学会センタービル 4階

TEL/FAX 03-5689-7955

E-mail: office@gisa-japan.org

URL: http://www.soc.nii.ac.jp/gisa/

## ■ 弥生雑記 ■

「図書館の前に沈丁咲くころは恋も試験も苦しかりにき」(吉野秀雄)  
学位取得の最後の関門、口頭試験は3月でした。落ち着いた気持ちで連日通う図書館の前には沈丁花。卒業を控えた別離の予感も胸に苦く広がる…旅立ちの季節です。社会人となられる学生会員の皆さん、また、職場を異動なさる皆さん、変更届は忘れずにご提出下さい。なお、4月1日付で、別便にて2008年度の年会費請求をお送りします。期日内に是非お支払いいただき、デジタルライブラリーのパスワードを受け取って下さいね (学会事務局)